令和６年度　　No.1

一戸子供の家保育園の自己評価(実施日１１月２５日)

保育所保育指針では、「保育所は、保育の質の向上を図るため、保育の計画の展開や保育士等の自己評価結果を踏まえ、当該保育園の保育の内容等について自ら評価を行い、その結果を公表するよう努めなければならない。」ことが明記されています。このことに基づき、当園では自己評価を実施いたしました。評価の結果を踏まえ、今後もより良い保育を提供できるよう努力していきます。

【評価について】
評価をするにあたっては、以下のような基準で評価を行っています。
A：大変良い　B：良い　C：一部検討を要する　D：改善を要する

＜Ⅰ　総則＞

1. 保育所保育に関する基本原則

	評　価　項　目	評価
保育所の役割	子どもの最善の利益を考慮し、人権尊重を意識して保育を行っている。	B
理念・方針	保育理念・方針を職員で確認し、保護者などに見やすい場所に掲示するとともに、園だよりや配布物を通し周知している。	A
保育の方法	①　子ども一人一人の特性や発達の過程に応じ、発達の課題に即した援助を行うよう心がけている。	A
	②　子どもの主体的な活動を促し、意欲を持って遊べるような援助を心がけている。	C
環境	健康的に過ごせるよう、保育活動の配分に気をつけている。	A
社会的責任	①　地域社会との連携を図り、保護者や地域社会に保育園を理解してもらうよう努めている。	A
	②　保護者の苦情に対し解決を図るよう努めている。	A

2. 養護に関する基本的事項

養護の理念	①　養護と教育を一体的に行うことを意識して保育にあたっている。	A
	②「養護」は生命の保持と情緒の安定で構成され、「教育」は健康、人間関係、環境、言葉、表現の５領域から構成されていることを理解している。	A
生命の保持	①　一人一人の健康状態や発達について把握し、異常に気付くことができる。	A
	②　生理的欲求が十分に満たされるようにしている。	A
情緒の安定	①　子どもの気持ちを理解し、信頼関係を築くよう心がけている。	A
	②　自分の思いや意見をはっきり伝えることができるよう配慮し、尊重している。	B

3. 保育の計画及び評価

全体的な計画の作成	全体的な計画の作成には、職員が参加している。	A
指導評価の作成	①　日常の保育を通して、子どもの思いや気持ちを汲み取りながら指導計画に反映させている。	A
	②　各年齢の子どもの発達状況に配慮した指導計画となっている。	A
	③　日々の保育の連続性や季節の変化を考慮して、指導計画を作成している。	A
	④　３歳未満児は、一人一人の子どもの発達状況、保育計画、生活状況について作成している。	A
	⑤　子どもが主体的に活動できるよう環境設定している。	C
	⑥　長時間にわたる保育のための環境が整備され、保育の内容や方法に配慮している。	A
指導計画の展開	子どもの実態や状況の変化に応じて、見直しや改善を行っている。	A
評価改善	園全体としての評価を行い、全職員の共通理解のもと改善に努めている。	B

4. 幼児教育を行う施設として共有すべき事

資質能力	① 育みたい資質、能力の３つの柱を理解している。	C
	② 年齢ごとに必要な経験の機会を与えている。	A
姿	「幼児期の終わりまでに育ってほしい１０の姿」を理解し計画を立て、保育にあたっている。	C

＜Ⅱ　保育の内容＞

1. 乳児保育に関わるねらい及び内容

基本的事項 ねらい 及び内容	① 離乳食については、家庭や栄養士と連携をとりながら、一人一人の子どもの状況に配慮して行っている。	B
	② 一人一人の生活リズムに合わせて、睡眠をとることができるように静かな空間が確保されている。	C
	③ 午睡中は体を仰向けにすることを認識して、体温、顔色、呼吸の安全チェックをしている。	B
	④ 生活や遊びの中で様々なものに触れるようにし、音･形･色･手触りなどに気づき感覚の働きを豊かにしている。	B
	⑤ 発育に応じて、這う・立つ・歩くなど体を動かす楽しさを十分に経験できるようにしている。	B
	⑥ オムツの交換、授乳などのサインを見逃さず受け止め対応している。	B
	⑦ 発声や喃語等を優しく受け止め応えることで、言葉の理解や発語の意欲を育てている。	B
	⑧ 誤飲、転倒など重大事故につながらないように安全環境に配慮している。	B
保育の実践に関わる配慮事項	① 特定の保育士との継続的な関わりが保てるよう配慮している。	B
	② 乳児保育に関わる職員間の連携を図り、専門性を生かした対応を行っている。	B

2. 1歳以上3歳未満児の保育に関わるねらい及び内容

健 康	① 生活リズムについては、一人一人の子どもの状態に合わせて対応している。	B
	② 走る、跳ぶ、登る、押す、引っ張るなど全身を使う遊びを取り入れている。	C
	③ 楽しい雰囲気の中で自分で食べようとする気持ちを大切にしている。	B
	④ 身の回りを清潔に保つ心地良さを感じ、その習慣が少しずつ身につくように援助している。	B
	⑤ 子どもが自分で衣服を着脱しようとする気持ちを尊重している。	B
	⑥ 一人一人の排泄状況に応じた配慮をしている。	B
人間関係	① 保育士等との安定したかかわりの中で、園生活を送れるようにしている。	B
	② 他の子どもとの関わり方を少しずつ身につけられるよう仲立ちをしている。	B
	③ 自分の思いを伝えたり、相手の思いに気づいたりする経験を重ねていけるよう援助している。	B
環 境	① 玩具や遊具は安全で、子どもの興味や発達に合った物を選び使用させている。	B
	② 積極的に戸外遊びを取り入れて身体の発達を促している。	B
	③ 見る・聞く・触れる・嗅ぐ・味わうなどの活動を取り入れ、感覚の働きを豊かにしている。	B
言 葉	① 楽しい雰囲気の中で保育士等との楽しい言葉のやり取りができるようにしている。	B
	② 絵本の読み聞かせや紙芝居などを積極的に取り入れている。	B
表 現	① 水、砂、土、紙、粘土などさまざまな素材に触れる環境を整えている。	C
	② 音楽、リズムなどに親しみ、歌や手遊び、全身を使う遊びを取り入れている。	C
	③ 子どもの表現をしっかり受け止め、共感している。	B
保育の実施に関わる配慮事項	① 体の状態、機嫌、食欲など日常の状態の観察を十分行うことで感染症を予防している。	B
	② 事故防止に努めながらさまざまな遊びを取り入れている。	B
	③ 進級などで保育士が変わる場合は、職員間で情報共有し対応している。	B

3. 3歳以上児の保育に関するねらい及び内容

健 康	① 生活に必要な基本的な習慣や態度が身につくよう保育している。	A
	② 食べる喜びや楽しさを味わいながら、食べ物への興味や関心を持てるようにしている。	B
	③ 十分に体を動かす気持ち良さを体験し、自ら体を動かそうとする意欲が育つよう援助している。	B
	④ 園内外の危険な場所を知り、安全に気をつけて遊ぶように働きかけている。	A
人間関係	① 友達と共通の目的を見つけたり、遊びを一緒に工夫、協力して共に達成感が味わえるよう働きかけている。	B
	② 良いことや悪いことがあることに気づき、考えながら行動できるように援助している。	A
	③ 友達と生活する中できまりの大切さに気づき守れるように配慮している。	A
	④ 生活や遊びの中で、意欲を大事にして頑張ろうとする力、自信、自己肯定感を持てるような言葉かけや援助をしている。	B
	⑤ 身近な友達との関わりを通して、相手を思いやり譲り合う気持ちを持てるように援助している。	B
環 境	① 園生活の中で、数量や図形、文字に触れる機会を取り入れている。	B
	② 伝統行事や異なる文化に触れる機会を作っている。	B
	③ 身近な自然事象に触れ、「どうして」や「なぜ」といった疑問に対して一緒に考えたり調べたりしている。	B
言 葉	① 人の話しを聞くことができ、日常生活に必要な挨拶や会話を身につけさせている。	C
	② 絵本や紙芝居などを通して、物語の楽しさや言葉のおもしろさに気づくように心がけている。	B
	③ 子どもが自分の体験や要求を自分なりに表現できるように配慮している。	A
表 現	① 音楽に親しみ、歌を歌ったり、踊ったり、リズム楽器を作ったり演奏したりする楽しさを味わう機会を作っている。	A
	② 感じたこと、考えたことを自分で自由に表現できるようにいろいろな素材に親しませ、発表の場を設定している。	D
	③ 一人一人の子どもの表現の過程を大切にし、自己表現を楽しめるよう心がけている。	B

4. 保育の実施に関して留意すべき事項

保育全般に関わる配慮事項	① 一人一人の子どもの心身の発達及び活動の実態などの個人差を踏まえ、気持ちを受け止め援助している。	B
	② 子どもの国籍や文化、性差、個人差に配慮している。	B
小学校との連携	① 小学校との意見交換や合同の研究の機会などを設けて情報共有や連携を図っている。	B
	② 子どもにおける情報共有に関して保育所児童保育要録を作成している。	A
地域社会との連携	① 地域向けの園だよりで、園の様子や行事などについて地域の人々に見てもらえるようにしている。	B
	② ボランティア、体験保育の人々を受け入れている。	A

＜Ⅲ 健康及び安全＞

1. 子どもの健康支援＋アレルギー

健康 発達	① 子どもの健康情報を共有し、子どもの既往症（アレルギー・熱性けいれん・脱臼癖・喘息など）について、すべての職員に 周知するとともに、その発生時の対応を行っている。	A
	② 不適切な養育の兆候や虐待が疑われる場合には、関係機関と連携対応している。	A
健康増進	① 健康診断と歯科検診の結果について、保護者や職員に伝達している。	A
	② 保育計画に基づき、全職員がねらいや内容を踏まえ、子どもの健康の保持や増進に努めている。	A
疾病等への対応	① アレルギー疾患、慢性疾患等を持つ子どもに対し、主治医からの指示を得て、適切な対応を行っている。	A
	② アレルギー疾患を持つ子どもに対し、栄養士、看護師と連携を持ち、個々に合わせた対応を行っている。	A

2. 食育の推進

保育所の特性を生かした食育	① 乳幼児にふさわしい食生活が展開されるよう、給食について見直しや改善をしている。	A
	② 乳幼児に身につけておきたい挨拶や姿勢、食具の持ち方など食事のマナーを伝えている。	A
	③ 展示食で年齢に適した食材の量や形状を保護者に知らせている。	A
健康増進	子どもが栽培、収穫したものや調理したものを食べる機会をつくるように心がけている。	A

3. 環境及び衛生管理並びに安全管理

環境及び衛生管理	① 園内の清掃がなされ、清潔に保たれ、子どもが心地良く過ごせるよう配慮している。	A
	② 生活の場面にあった保育士の声、音楽など音に配慮している。	A
	③ 園内に子どもたちが季節感を味わえるような工夫をしている。	A
	④ 子どもが活動しやすい様に保育室の温度、湿度、換気、採光などに配慮している。	A

4. 災害への備え

安全確認	① 非常用持ち出し袋（散歩用リュックを含む）の中身を定期的に点検している。	B
	② 消火器、火災受信機、配電盤の設置場所が分かり、操作方法を知っている。	C
避難への備え	① さまざまな災害を想定した避難訓練を行っている。	A
	② 保護者との連絡体制や引渡し方法が確認されている。	C
連携	地域や関係機関と連携を図り、協力が得られるように努めている。	B

＜Ⅳ 子育て支援＞

1. 保育所における子育て支援に関する基本的事項

支援と留意事項	① 保育士は日常、保護者や子どもの様子を注視し、虐待の予防や早期発見に努めている。	A
	② 保護者が、子育ての悩みや心配事を安心して話せる存在になるよう心がけている。	A

2. 保育所を利用している保護者に対する子育て支援

保護者との相互理解	① 送迎の際の対話や連絡帳への記載などの日常的な情報交換に加え、別に機会を設けて相談に応じたり個別面談を行っている。	B
	② 家庭の状況や保護者との情報交換が、必要に応じて関係職員に周知されている。	B
	③ あらかじめ年間行事の日程を知らせ、保護者が保育参加の予定を立てやすくしている。	A
	④ 保護者が、就学に向けての子どもの生活について見通しを持てるよう配慮している。	B

3. 地域の保護者等に対する子育て支援

地域の子育て支援	① 地域における子育て支援を実施し、地域の子育て支援ニーズを把握するよう努めている。	B
	② 子育て支援の情報提供や育児相談ができる体制が整っている。	B
連 携	子どもの医療や保健に関する問題について、連絡、相談する外部の関係機関を把握している。	A

＜Ⅴ　職員の資質向上＞

1．職員の資質向上に関する基本的事項

保育所職員に求められる専門性	①　相手の立場にたった挨拶、電話、来客者応対ができている。	B
	②　自己の健康管理ができている。	B
	③　保育業務の中で知り得た子どもや家庭に関する秘密の保持について、全職員に周知し、守られている。保護者や地域の人からの相談事項について、プライバシーの保護、話された内容の秘密保持を徹底し、守られている。	B
	④　職員一人一人が倫理観を持ち、人間性並びに保育所職員としての職務及び責任の理解と自覚を持っている。	B
質の向上に向けた組織的な取組	①　業務遂行にあたって、正確、迅速かつ、報告・連絡・相談を実践している。	C
	②　人の話を聞き、正確に伝達できている。	B
	③　問題意識を共有しながら職員間で共通理解し、協力している。	B

2. 職員の研修等

研修の活用	①　園内研修を行っている。	B
	②　各職員について、適切な研修機会の確保を行っている。	A

【園全体の評価】

1. 園児数の増減に伴い年度初めと年度途中で保育室の変更が必要となったが､新しい環境作りのため職員間で意見を出し合い、また保護者にも理解、協力を得ながら実施したことで、子どもたちはスムーズに慣れることができた。
2. 保育中の事故防止のため、各種マニュアルの見直しを行い各保育室に設置した。また、食事中や午睡中の様子を振り返るためのチェックリストを活用し、安全管理への意識向上に努めることができた。
3. 保育中の事故・ヒヤリハット発生については真摯に受けとめ、職員間で振り返りや解決策を検討し、再発防止に努めた。
4. 行事等終了後は職員間で振り返りを行い、記録を取り、次年度に繋げるように取り組んだ。
5. 保育士と栄養士、看護師での連携を図り、専門性を活かしながら保育することができた。
6. 年度途中の入園や個別配慮が必要な子ども等一人一人の個人差を踏まえ､気持ちを受け止めながら接し、安心して過ごせるように努めた。また、必要に応じて保護者と面談を行いながら、共通理解のもとに関わることができた。
7. 園だよりやメール配信等で保育の様子や行事予定などをその都度伝え、理解、協力を求めることができた。
8. 寄せられた苦情を真摯に受け止め、保護者の状況に配慮しながら解決策を検討し、相互の信頼関係をを築くよう努めることができた。

【今後の課題】

1. 幼児教育を行う施設の職員として保育所保育指針等をよく理解していないので、見直す必要がある。
2. 職員間での報告・連絡・相談を徹底し、連携を図りながら業務遂行していく。
3. 自己評価の課題を定期的に確認すると共に、実践しながら解決に努める。
4. 子どもが主体的に遊びや活動ができるよう、環境作りや働きかけを実践していく。
5. 子どもの体力作りを育む活動として、マラソンタイムやリズム体操などを継続して取り入れていく。
6. 保護者へのアンケートを実施し､率直な意見や要望等に耳を傾けながら､保育や行事に活かしていく。
7. 防災訓練において、実施内容や避難先での引き渡し訓練方法を検討する。
8. 地域の方々との交流を積極的に行いながら、世代間で交わる喜びを味わうことができるようにする。また、園の事業をホームページや園だより等で情報発信し、地域に根差した保育園を目指したい。